

「世界を救う第一歩」

北海道教育大学附属函館中学校 1年 木村 帆希

私は、小学五年生のときに骨肉腫という病気を患い、一年間入院した。その際、母に病室代、食費くらいしかお金を払っていないと聞いた。当時の私には、その意味が全くわかっていなかった。税について、私はあまり良いイメージを持っていなかった。お菓子を買うときにも、消費税として支払う料金が増え、家庭でも節約しなければならない場面があった。ニュースでは、税が増すということで、人々はたびたび反対し、岸田総理のことを、「増税メガネ」と言う人も現れた。このことが原因で税について批判的な意見を持っていたのではないかと思う。今思えば、その何も知らなかった自分がとても恐ろしい。

やはり、税金といえば消費税、所得税などを想像する。私は、損失だけに注目してしまっている。人々もそこに注目し過ぎているから増税を批判するのだろう。しかし、私は、多大な恩恵を受けていた。市の高校生までの医療費が無料という政策が身近にあった。また、病気である私は、手術など全額自己負担の場合は、ざっと一千万円を超える。しかし、小児慢性特定疾患の対象に登録されているため、住んでいる市以外では、医療費に上限があり、そこも身近で、助けられている。もっとも、その分の医者などの医療関係者への給料は国の収入の大半をしめている税金によって支払われている。このように恩恵を受けているのは、私たちのような子供だけではない。道路が整備され、公共施設も整い、生活が困難な場合はお金も支給される。すべての世代が、安心できる充実した生活を送れるような仕組みになっている。また、少子高齢化が進んでいる中で、その対策として、社会保障の費用を増やしている。増税の理由の一つはそれだ。自分には関係ないと思っている人も将来、自分たちが払った税金によって助けられるだろう。

私たちは、納税した分、いや、それ以上の恩恵を受けていると思う。税金を払い、安心した生活を送れる。また、公共施設、学校が作られる事によって知識などを得られ、それを行使して、新しいものを作る。このサイクルによって、国が発展し続ける。そして、より安心で、快適な生活を送ることができる。しかし、税金に悪いイメージを持っていても、発展するものも発展しない。それどころか、国民が納税しなくなったら国が崩壊してしまう。このように、税金が国を動かすということは、国の収入のうち税金が六十二パーセントを占めていることからわかるだろう。私たちは、税金で安全で充実した生活、知識を買っている。そのため、一人一人がポジティブな気持ちで納税するべきだと思う。そのことで、少子高齢化、地球温暖化などの様々な問題の解決につながればいいと思う。今度は私が納税をして、誰かの命を救いたい。そのために、将来を見据えて、今できる体調管理や学問に励みたい。